

尾張名所圖會

後編

五









尾張名所圖會後編卷之五

目錄 葉栗郡

葉栗郡解

黒田里

正徹法師黒田里ト託居トの図

黒田神社

一柳氏城跡

剣光寺

宝光寺

善龍寺

善光の古事

舊善光寺古跡

法蓮寺

黒田古戰場

北方里

北方渡

妙性坊

宝行寺

名産ヲ菘ヲ鮫ヲ

東郷侍從

大日社

里小牧渡

養願寺

玉の井里

玉の井舊跡

玉の井古覽

加茂明神社

玉井助重舊宅 念敬寺

及川古渡

割田ヲ繪ヲ

開田ヲ氏古城址

三宝寺

伊富利部神社

結城ヲ縞ヲ織屋ノ図

佐手原御厨

大毛郷

大毛神社

極樂寺

榮泉寺

光明寺

意足居士

極樂寺廢跡

大野神社

河田渡



葉栗人磨塚	小塞郷	小塞神社	小塞宿禰
尾関石見守	壽福寺	養蠶の園	妙光寺
石刀神社	宮田天王社	上郡田圃粟林	宮田松
河沼舊郷	魚入天神社	文永寺	千間猿尾
草井大猿尾	名産年奠	村國里	曼陀羅寺
曼陀羅寺 <small>小</small> 軍議の園		名産飛保茶	河俣上天神社
勝宝寺	運善寺	若栗舊郷	若栗橋
若栗神社	宇夫須那神社	八竜社	淺井骨接

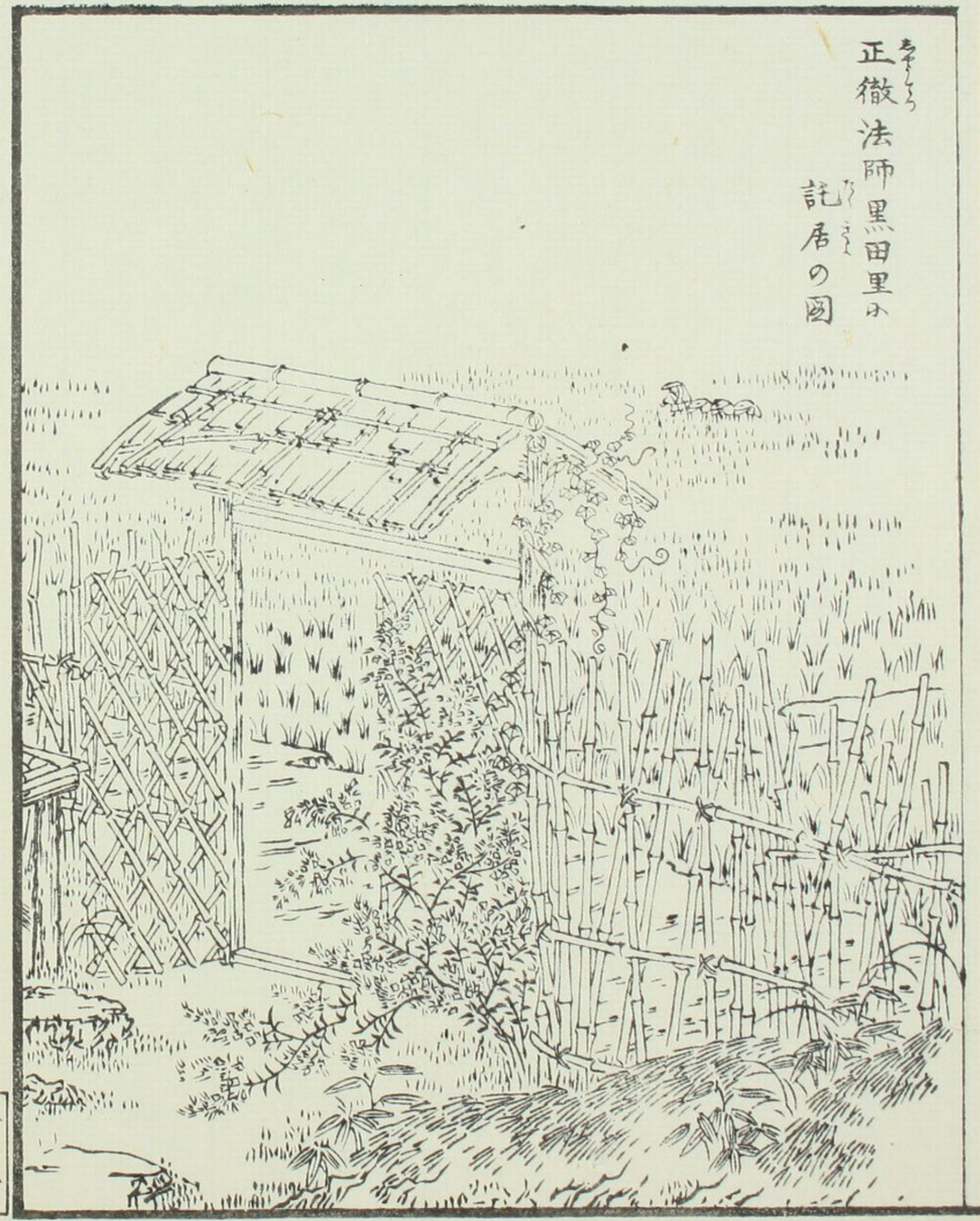
葉栗郡

當郡ハ國のさらの乾の極なる地と東西ハ長く南北ハ縮まり民部省國帳ハ葉栗郡行程東西二十餘里南北二十二里七十歩と古制の六町一里ありて天正十二年北の方木曾川のわきと數十村を美濃に附屬せしむるを今此れありて其美濃のつとむる地ハ羽栗郡とわきて葉文字と羽文字と四至東ハ丹波郡に隣り南より西一まわり中島郡に接し北より乾一まわり本多川と境と灰山あり平均して田島多と郡あり

黒田里 岐年抄名簿の中島郡一宮の北西よりて回ト抄名簿の村ありて一宮なるに黒田里ありて東鑑に建久元年十二月頼朝公上洛御法の系に十七日丁酉黒田と見ゆるに同書建長四年三月三品親王宗尊將軍關東御下向の休泊とありて又二日丙午書黒田と見ゆるに和歌の多分の一ハ松葉集秋の寐覚等にして又と松枝庄とありて西園寺殿の清れありて公經の大匠の北山に西園寺と主沙堂と創建ありて其地資永朝臣の領ありては尾張の松枝庄と増鏡小曰ハ石の沙又ハまじりて右大臣實



正徹法師黒田里小  
託居の圖



正徹法師字清巖和月菴  
と号し東福寺の書記なり  
近代の文藝に於て世に名  
をいせり長福二年  
五月九日寂す八十遺稿を  
草根集と名づて一巻禪問  
答其序と末とあり之  
著る所慰草清巖茶話  
正徹助語正徹千首正徹  
百首寺なり

正徹





の行に其又殿公のむらさかもそのまは足踏つ事なり  
て源氏の中將たりしやまもあひまひし山のはげりに世ふ  
あへんしに浄寺なる名とて西園寺といふ所  
伯の三位よりあがの位ありしをさへりれ玉柄をばりし  
所小あまひてげり云々

くら田の里 尾張海道宿次百首

夫木抄 意をも今もてんはくもむの黒田の里れ夕やれま 春議為相卿

くら田の里の所ひいふくら田の子のむらさかもそのまは足踏つ事なり  
くら田の里の所ひいふくら田の子のむらさかもそのまは足踏つ事なり  
くら田の里の所ひいふくら田の子のむらさかもそのまは足踏つ事なり  
くら田の里の所ひいふくら田の子のむらさかもそのまは足踏つ事なり  
くら田の里の所ひいふくら田の子のむらさかもそのまは足踏つ事なり  
くら田の里の所ひいふくら田の子のむらさかもそのまは足踏つ事なり  
くら田の里の所ひいふくら田の子のむらさかもそのまは足踏つ事なり  
くら田の里の所ひいふくら田の子のむらさかもそのまは足踏つ事なり  
くら田の里の所ひいふくら田の子のむらさかもそのまは足踏つ事なり  
くら田の里の所ひいふくら田の子のむらさかもそのまは足踏つ事なり

意章 おもてりし世もてむらさかもそのまは足踏つ事なり 正徹法師

同 くら田の里の所ひいふくら田の子のむらさかもそのまは足踏つ事なり 全

夕やも黒田の里の名もいふくら田の子のむらさかもそのまは足踏つ事なり 加藤磯足

明もてりし世もてむらさかもそのまは足踏つ事なり 市岡猛彦

黒田神社 黒田村 南所の生を沐して延喜神名式小葉栗郡黒田神

社本國帳小従三位黒田天神と志海せり 例祭九月九日 民部省圖帳小黒

田明神神田三十五東外以海鮮食鹽為貢皇極二年三月初行

神禮神靈者定比咩命瀬織津比咩命二座也久我家相續以

使祭之三月上丁日

一 柳氏城跡 同村のありしなり和河内守築て居す其後沢井なる所 柳氏重

秋伊勢國津戸に移りしを廢て織田伊勢守信安國統より一時ハ山内

但馬守盛豊と黒田の代りて尾陽雜記人物志畧等小なり

大徳山劍光寺 同村にあり 藤清京京都妙心寺末徒久元年十月右大將

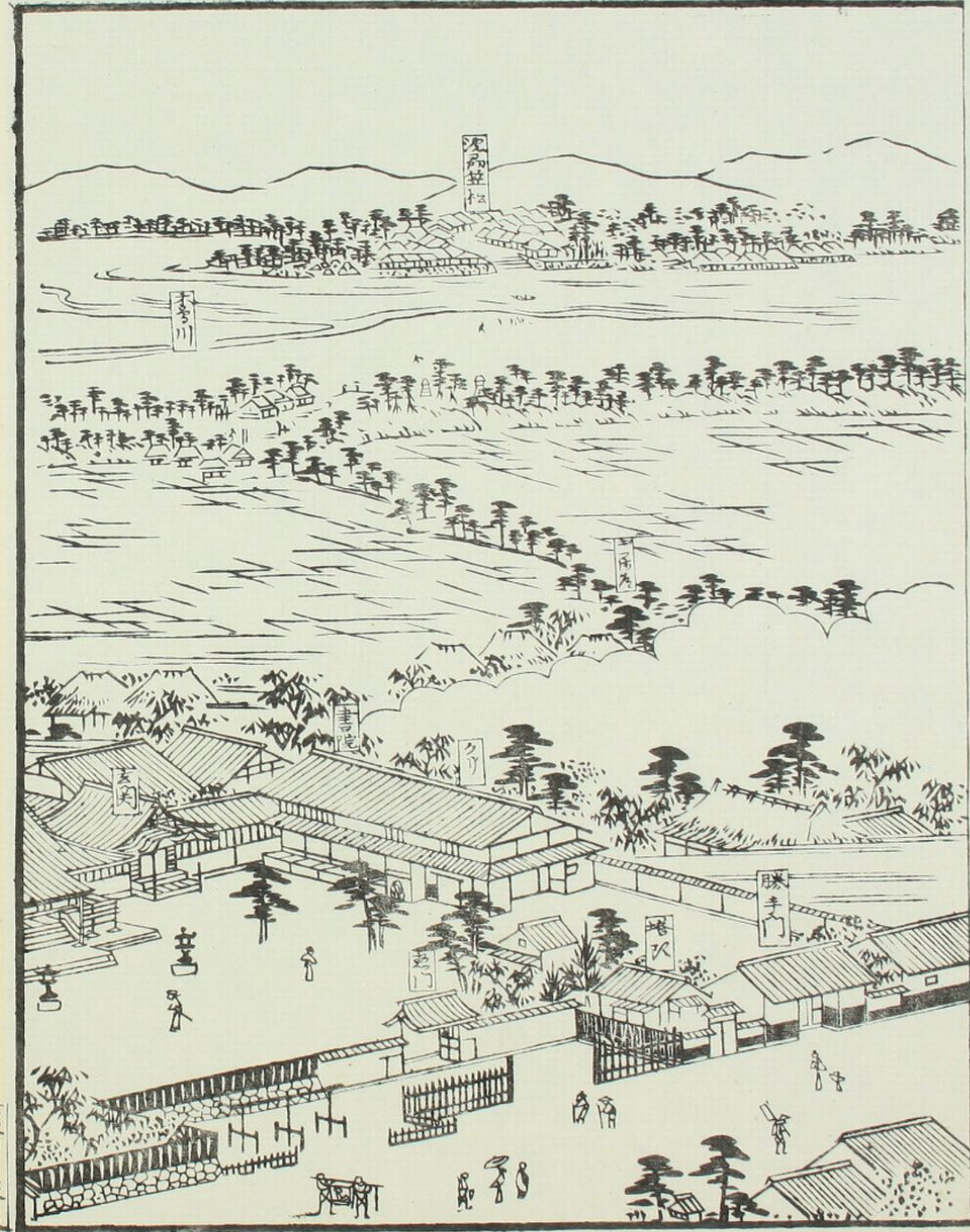
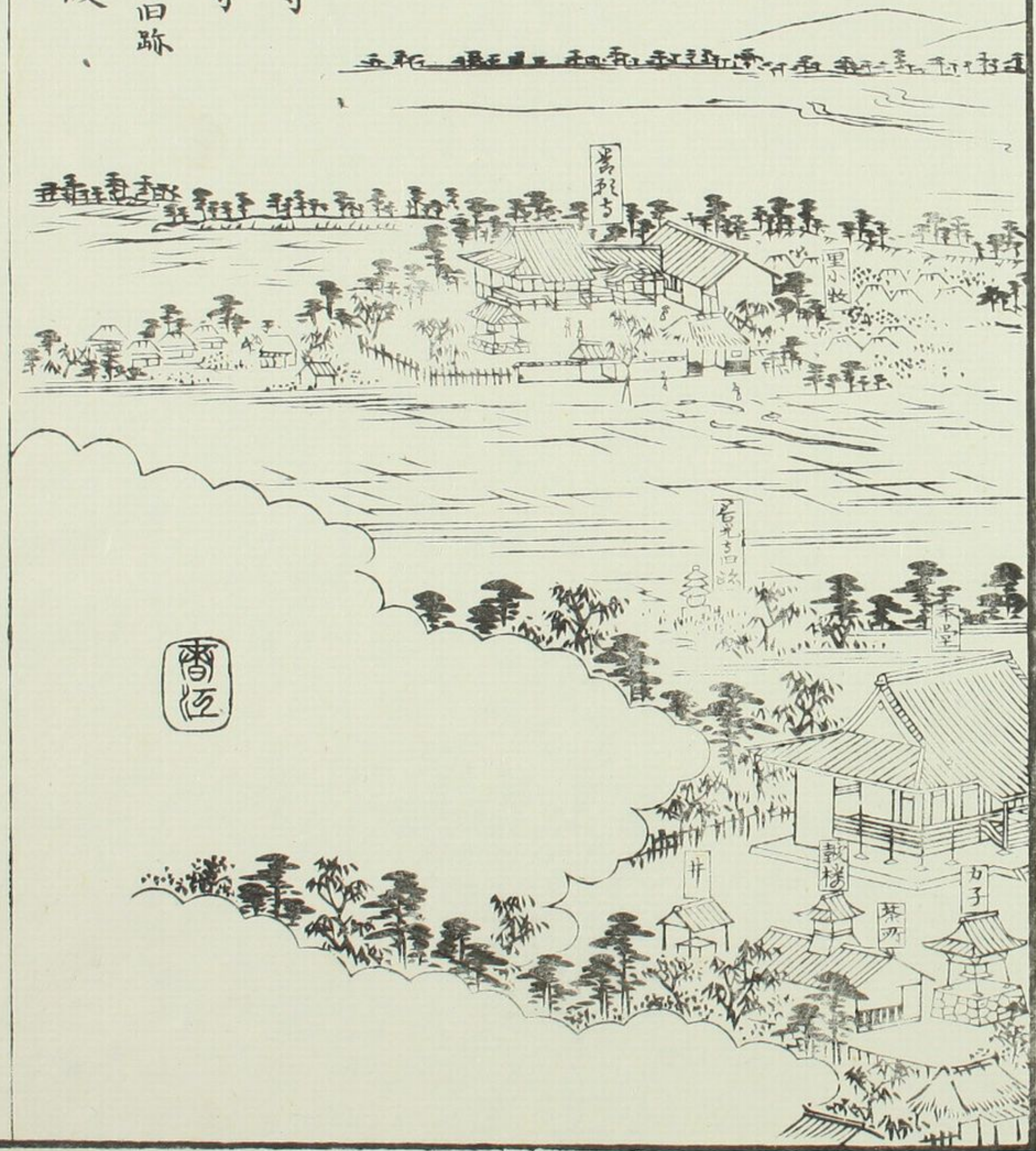
劍一口を奉納せり 劍光寺の名はけ劍のありて海をりしとて地蔵のあり

安和尙再興して今一宮の地蔵と傳はりしなり 永祿三庚申年

此の地蔵もより意章につれりしに近きかきし地蔵のありしなり



善竜寺  
 養願寺  
 善光寺堂旧跡  
 笠松渡





のむりお清なるやうにひらいて、目とく次云云の下の四日例の清きに来り  
 たらに夕つゝあればや人もまじりて、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうに  
 公りて、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうに  
 のお清なるやうに、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうに  
 とど人もまじりて、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうに  
 清上りもいまいけり、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうに

瑞林山寶光寺

同村のあり、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうに

蓮萊州室光禪寺花時之會而余不得預其席  
 後一日遇之主人求予詩欲雜彥之篇授筆  
 應厥命登雪則室光之鎮守白山之廟号也  
 万里居士

梅花冬藏

登雪廟前來扣扉數篇細讀故人詩鶯声未老有花

若栗山河野善龍寺

同村のあり、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうに

寺傳小三あちハシ

同郡河島にありて、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうに  
 聖人あふ化導の初祐道とて、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうに  
 今の宗小わつゝ、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうに  
 弥陀の本像、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうに  
 向の時ハ、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうにお清なるやうに、お清なるやうに

如来善光と脊負て  
 黒田里と獲りての圖



齋匠











樂記小嘉慶二年五月九日土岐左馬助於尾州黒田合戰場討死

北方里 康正二年造内裡段錢兵國役引付の壹貫八百廿五文伊賀美作守殿尾張國堀津北方段錢と云ふより堀津村の北方川の向ひ小川にて今も其流に居す

北方渡 北方より受流の急湍を村(の)の流に流す急湍寺の流と云ふ

寂光山河野妙性坊 北方村にあり一向宗東派系部 尚寺にあり天台宗

河野河沼 郷望田村にあり其後衰廢し其後長

因式部卿秀実出家して正念と云ひ仁治元年子の多親卿

聖人東國より幽活の節聖人の法徳小随喜して今れ宗改め終小

河野九門徒の一とある 大谷を流源也

竜登山寶行寺 田村小川一向宗東派系部本山直末の内陣一家より其玄

川左近大夫親康の三男近江に於て出家して休安と云ふ其母上人の由依

時按の五輪と云ひつゝより休安より三代真言念佛無量寺にて其母上人の由依

田とつゞぐ今の家に改む又近頃弘化三年六月坊内(雷落)本堂(かけ)入が修小登天

をめてが修りて画くとも元筆の及ぶ所小川の流を雷画と号く其に一

名産 鮫 田所本流川あり白くそのらひて其味より早春まで其味を

害を避るをこまりあり郷ありて其味より其味より其味より其味より

世人評か 美人評か

東郷侍従舊居 田村小川あり知名長谷川竹と云ひて信長公の小姓と云ふ

直言と登して高貴の人と云ふ 尚書に於て其味より其味より其味より

玉滴隱見等の諸記に云ふ

大日社 田所本流川の堤の上にあつた祠にあり其味より其味より其味より

大洗磯前茶師菩薩神社又美濃國池田郡弥勒菩薩神社と云ふ

此は其味より其味より其味より其味より其味より其味より其味より

其味より其味より其味より其味より其味より其味より其味より

其味より其味より其味より其味より其味より其味より其味より

其味より其味より其味より其味より其味より其味より其味より

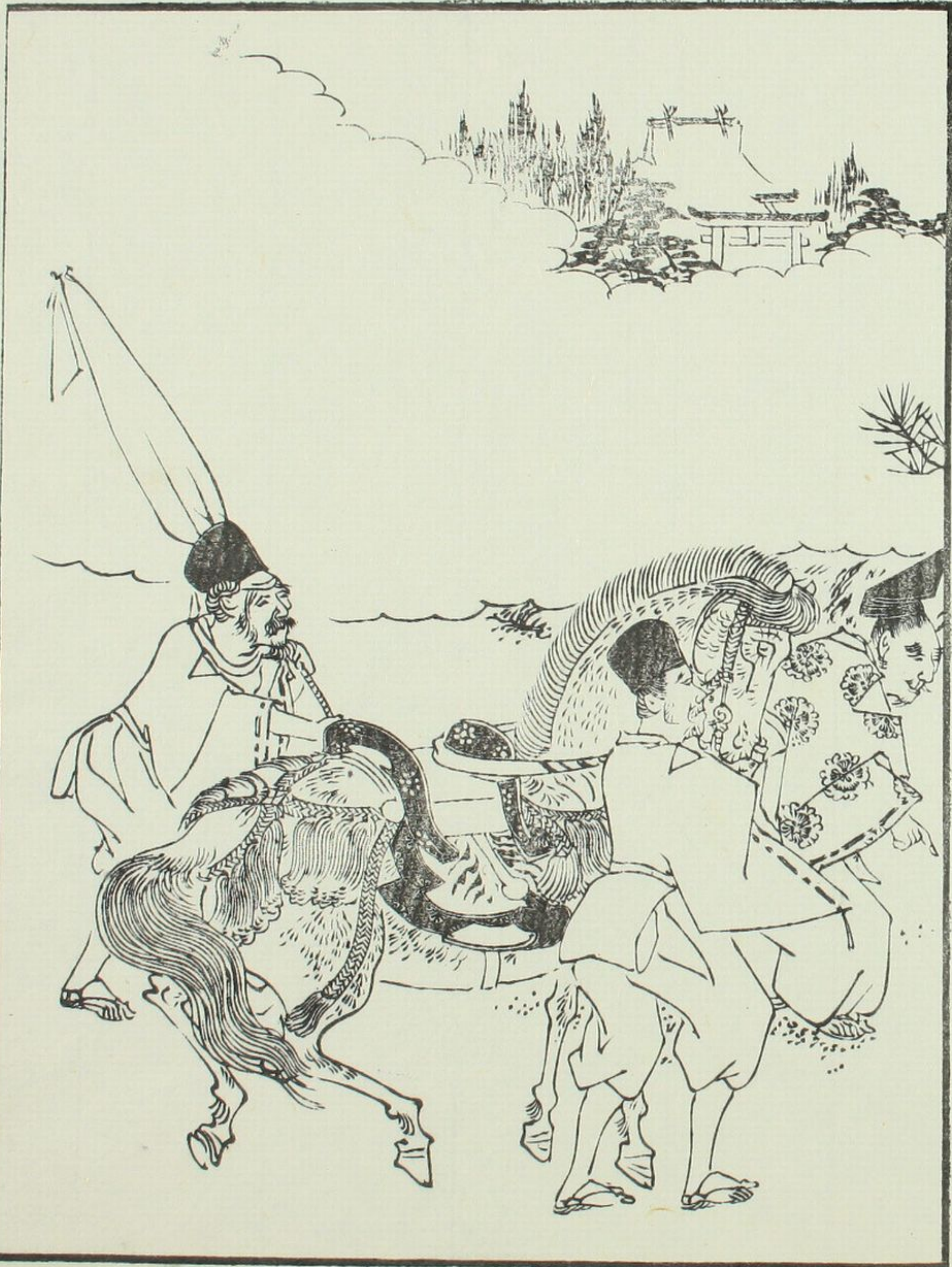
其味より其味より其味より其味より其味より其味より其味より

其味より其味より其味より其味より其味より其味より其味より









玉の井古覧

あつらひしき玉の  
の袋よこしつらりあひ

泰議雅經卿

明日香井和母集

あひひつらりあひ

とみをたつたれり

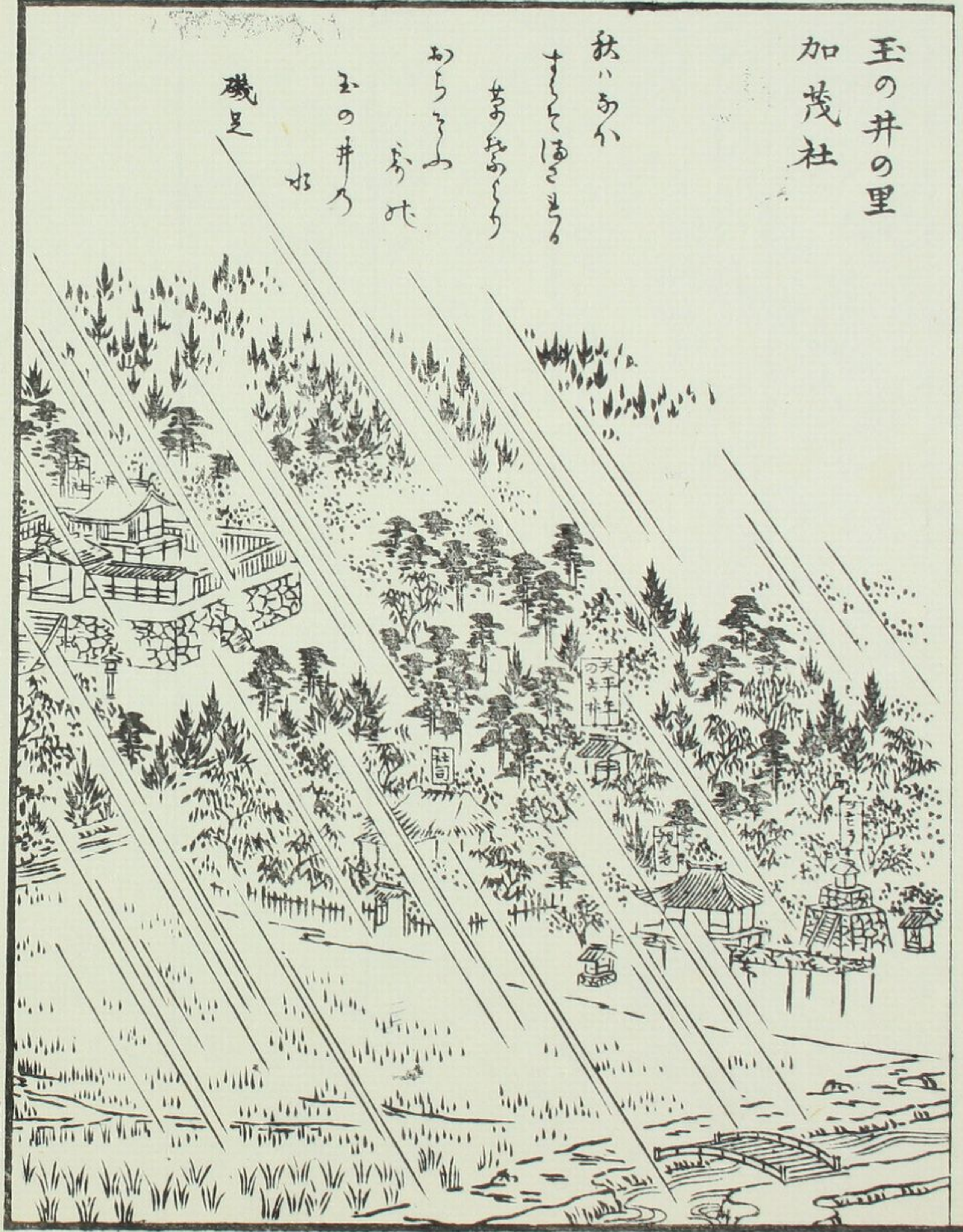
袖の玉の井れ水





玉の井の里  
加茂社

秋のあふ  
すももほろもろ  
あけのこ  
おらうら  
玉の井の  
水  
磯足



あふれ  
きりびの  
丹のこ  
こらに  
あふれ  
秋産

香





悪令懐諸人愁之由謳歌近日殊又有違勅之科今日被仰助  
重云違背綸命之上者不可住日域依令忽緒関東不可泰鍾  
倉早可逐電云云

玉井山念敬寺

同村のりう一向宗東流受法田堪三村西徳寺未往古の爾基詳あり  
宗泉禪定尼の石碑ハ玉井氏の妻室の塚云々  
永正六巳巳四月十九日と彫りつけあり

及川古渡

玉井村三ツ法寺村の邊の本若川むうの宿道の石橋あり今ハ廢ま  
り人の移りてのりう南及村北及村今ハ其法に承けり正徹の懸草  
ハあがりたよびまよあがりやうにさすぬとる一宗長手記に因ハ不  
立傳ハ所吾境と家居と次橋ありたよびまよのまよ川落念をにの  
まよとる

覽富士記

つり若のりみやまよ及川ありたよびまよのまよ

克孝法印

割田繪

割田村ありの諸村あり綿糸繪と察ハ其内割田繪と最上名物  
と近年ハ結城本俣寛大寺本俣と織出次りまよ野一神宮雜例集  
ハ尾張國本封調繪九十匹云々新封調繪二十五足と記し正中二年ハ書  
尾張國解文ハ調繪及び精好生念と記し貢献と記し今昔物語ハ  
尾張玉ハ調繪糸織あり所まよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
國基集

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
津守國基

開田氏古城址

同村あり今田圃とめ開田二郎源國用又開田判官代重國も辰位  
家物語成衰記寺の諸國原氏調繪のうらに  
美濃尾張ハ開田判官代重國と記し

八劍山三空寺

同村ありハ劍社とつとふむハ神宮寺とつとふハ松平  
君山翁より天合宗して春日井郡野田村密藏院未智澄大師  
契田のハ劍宮とつとふ清一又不動明王の像を刻しハ高寺に安  
至次ハ山号ハ次寺空不動の画像も巻繪大師の筆あり

伊富利部神社

同村の支邑ハ幡村あり同支邑  
福塚村及び田村の氏神あり

式内にて本國帳集説ハ伊富

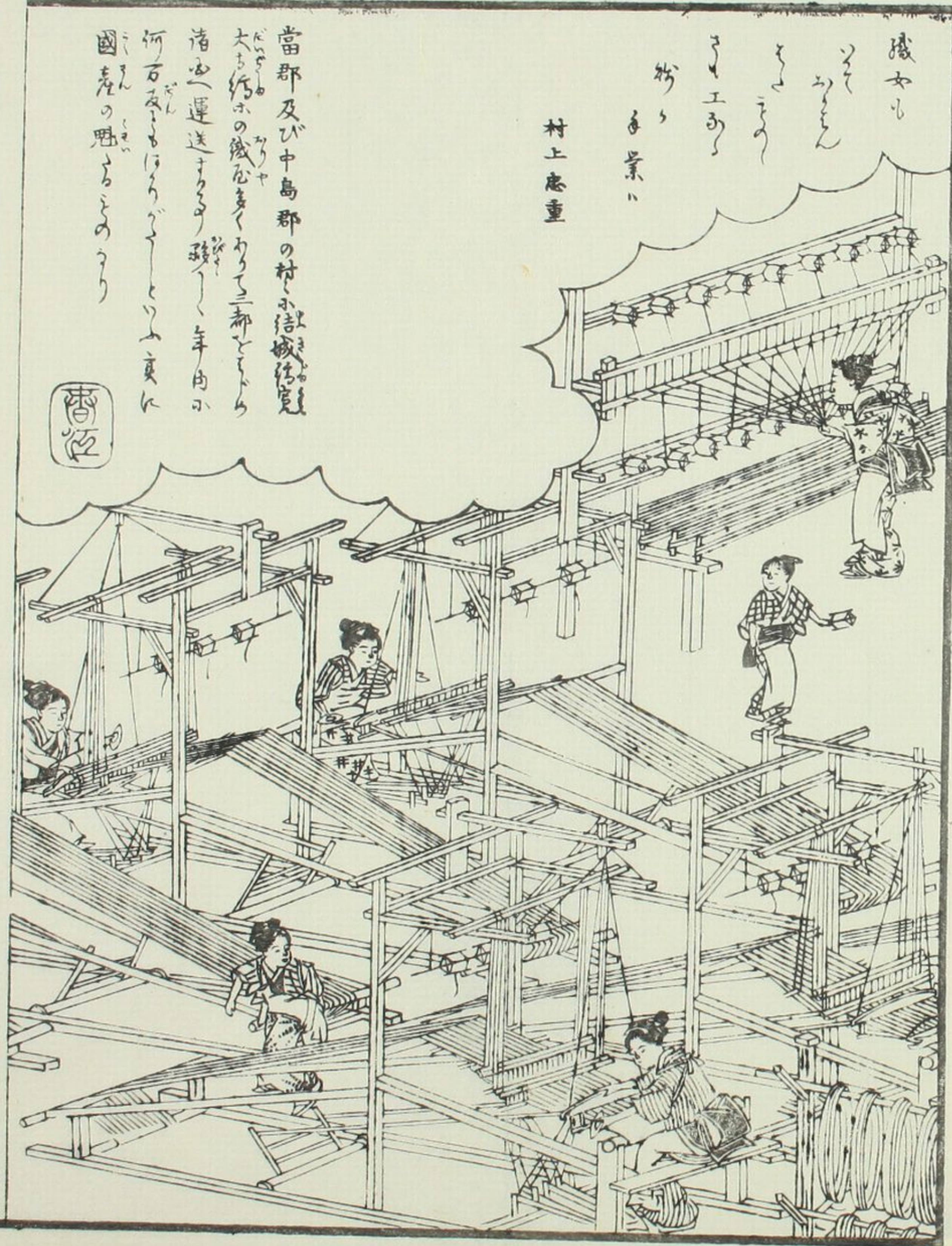
利部神社と當社に考証あり近頃ハ武の神号のそと略り元ハ  
八幡村のハ幡とて國分寺と曰く諸玉にある例とて巴玉の行者たハ  
かろハ係治まるとつとふハ常ハ常に諸玉の諸人絶るとりハ  
附ハ國分寺ハ廢跡のそと當社ハ今も巖然と冥跡目ハ新ハ  
ハ神とびりハセまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
儀ハ作ともハあり天正十年黒田城主澤井在馬ハ厨  
再建すとつとふ今も尚郡中の大社なり昔ハ檀更大  
地ハ門る村ともハ幡村とつとふハ門る以覺寺の阿弥院の



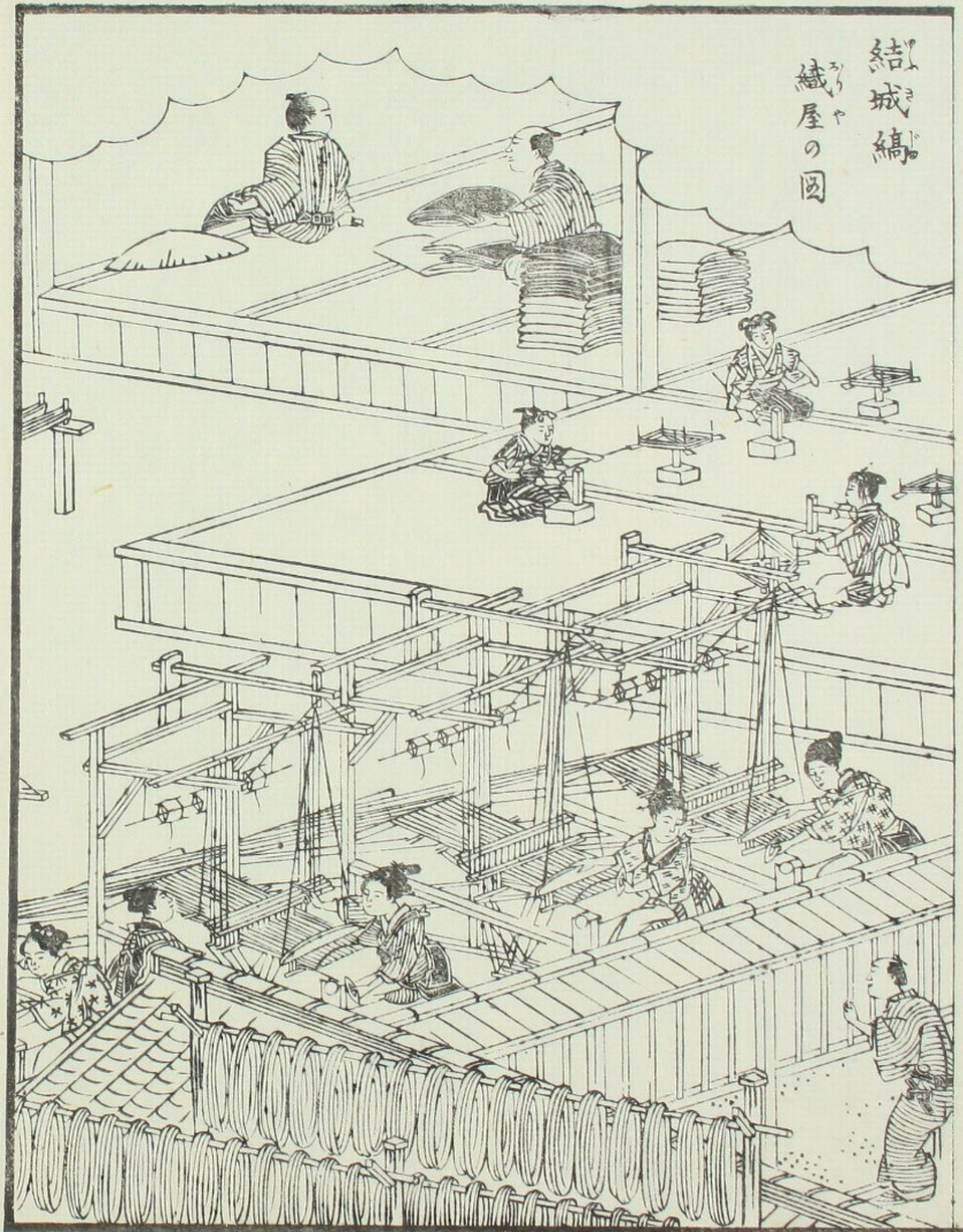
當郡及び中島郡の村々には結城綿織  
 大に作るの織を多くありて京都と  
 清心運送するの致し一年の  
 何百及もはるるなりと云ふ  
 國産の魁たるものなり

香江

織女  
 多業ハ  
 村上志重



結城綿  
 織屋の図







香

伊富利部神社

今や程々け

何とまらふ

いゆり一乃

淋のまのた

ゆるせり

史雄





画像の裏書小享祿四年辛卯十月廿八日尾州羽粟郡上門真  
庄八幡村福藏坊と見ゆり 末社 神明社 春日社 辨財天社 富士浅間社  
神宮司社 貴船社 若宮八幡社

例祭 八月社人林

佐手原御厨

佐手原村を以て大御所の神領とて神鳳抄に尾張国佐手原御厨  
と見ゆり今いさしきり又本國帳集説の一本に從三位坂手原  
天神を佐手原とていふ今もあづきの産とてその宮跡ありと見ゆり其御正殿より  
とつる石もあり今も佐手原村一向宗の淨蓮寺とてその小太子石とて聖栞一尺程とて目方十  
二貫目の石丸の石ありこれ別被宮の跡歟  
ありと見ゆり佐手原村に佐手原とて見ゆり

大毛郷

今の大毛村を以て大毛郷とて見ゆり又若栗郷とて見ゆり目下  
地あり和名抄に葉栗郡大毛と見ゆり舊地あり 民部省圖帳

曰葉栗郡大毛公穀九百六十七束有餘假粟法性寺岡殿之舊  
領也故以假粟充無粟之貢大毛川貢鮫鮎鮠等官家命國司  
之史部為乾魚

大毛神社

同村小 延喜神名式小大毛神社本國帳小從三位大毛天神

と見ゆり 一本小大毛 例祭 八月朔日 天子塚 菴入塚 今も同村小  
ありて共に尚社小屬とて古跡あり

と見ゆり 尚社小屬とて古跡あり 尚社小屬とて古跡あり

榮泉寺

同村にあり一向宗東派 尚寺ハ河世九門徒のふして元天台宗あり  
創建の年紀詳なくはとて寺傳小向風六年栗本人磨の商孫栗本

源吉夫國改草創一庵入山王家院と稱し又和栗殿と云其後嘉禎年中  
の僧法禪坊寂天親齋上人小湯依し今の宗と改む其時名を教海坊

了源と稱ふ庵入娘所持の雛ハ元尚寺小ありしが大毛神社小納むといはれ  
極樂寺 同村にありもと極樂寺村ありしが此大師の齋院とて遷すといはれ  
名古石極樂寺 階光寺の信圖上又い所小荒庵の移寺ありとて後渡し極樂寺と号すといはれ

遍照山光明寺

光明寺村にあり天台宗 天武天皇の白鳳六年の建立とて瑤囊抄に飛

鳥津御原御宇丁巳小中葉栗臣人磨始建立しとてぐりの尼寺と名づけ  
しとて志はしとて古刹ありしが中古廢絶し其後再建せし寺あり

意足居士

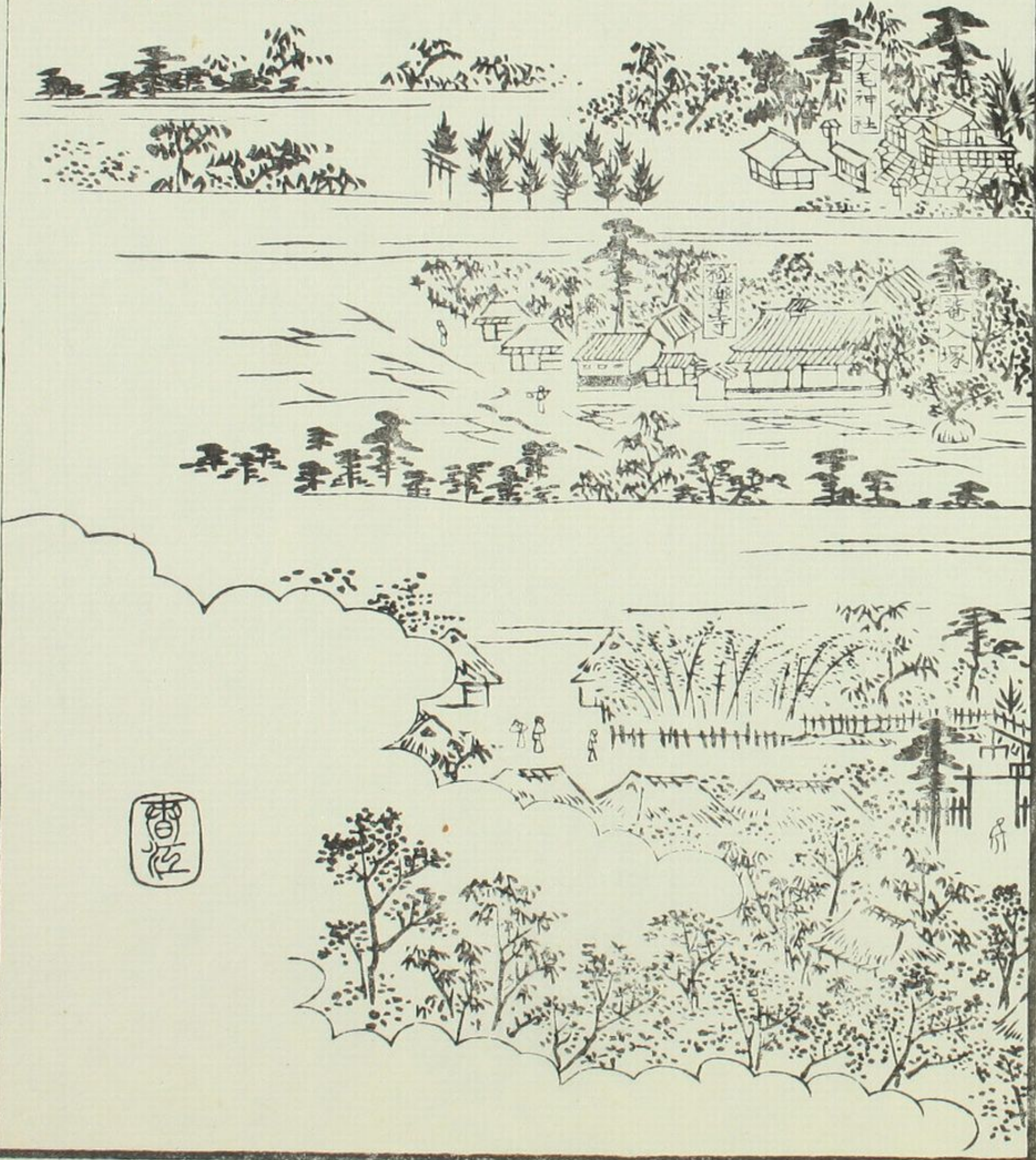
同寺の住僧かて軍部と好む書とて略記に神居住とて公に對し多しといはれ意足公の別

に侍とていふは住公の作といはれ意足公の別記に神居住とて公に對し多しといはれ意足公の別  
記に侍とていふは住公の作といはれ意足公の別記に神居住とて公に對し多しといはれ意足公の別  
記に侍とていふは住公の作といはれ意足公の別記に神居住とて公に對し多しといはれ意足公の別

をさめしといはれ住公の作といはれ意足公の別記に神居住とて公に對し多しといはれ意足公の別  
記に侍とていふは住公の作といはれ意足公の別記に神居住とて公に對し多しといはれ意足公の別



大毛神社  
 廬入塚  
 極樂寺



香

榮泉寺

巖  
 教了花  
 今朝出上人  
 高木屋  
 梅谷



五ノ十五



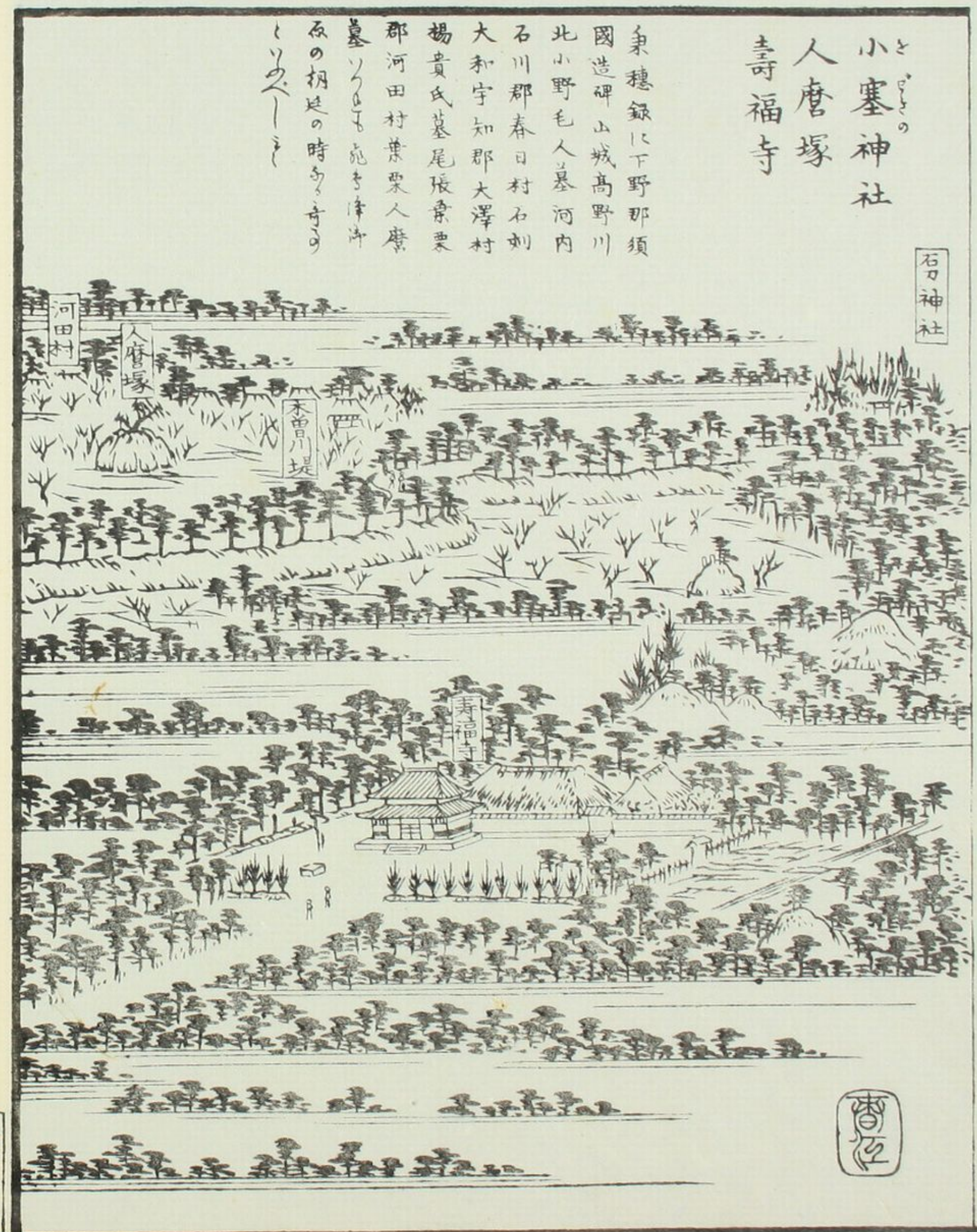




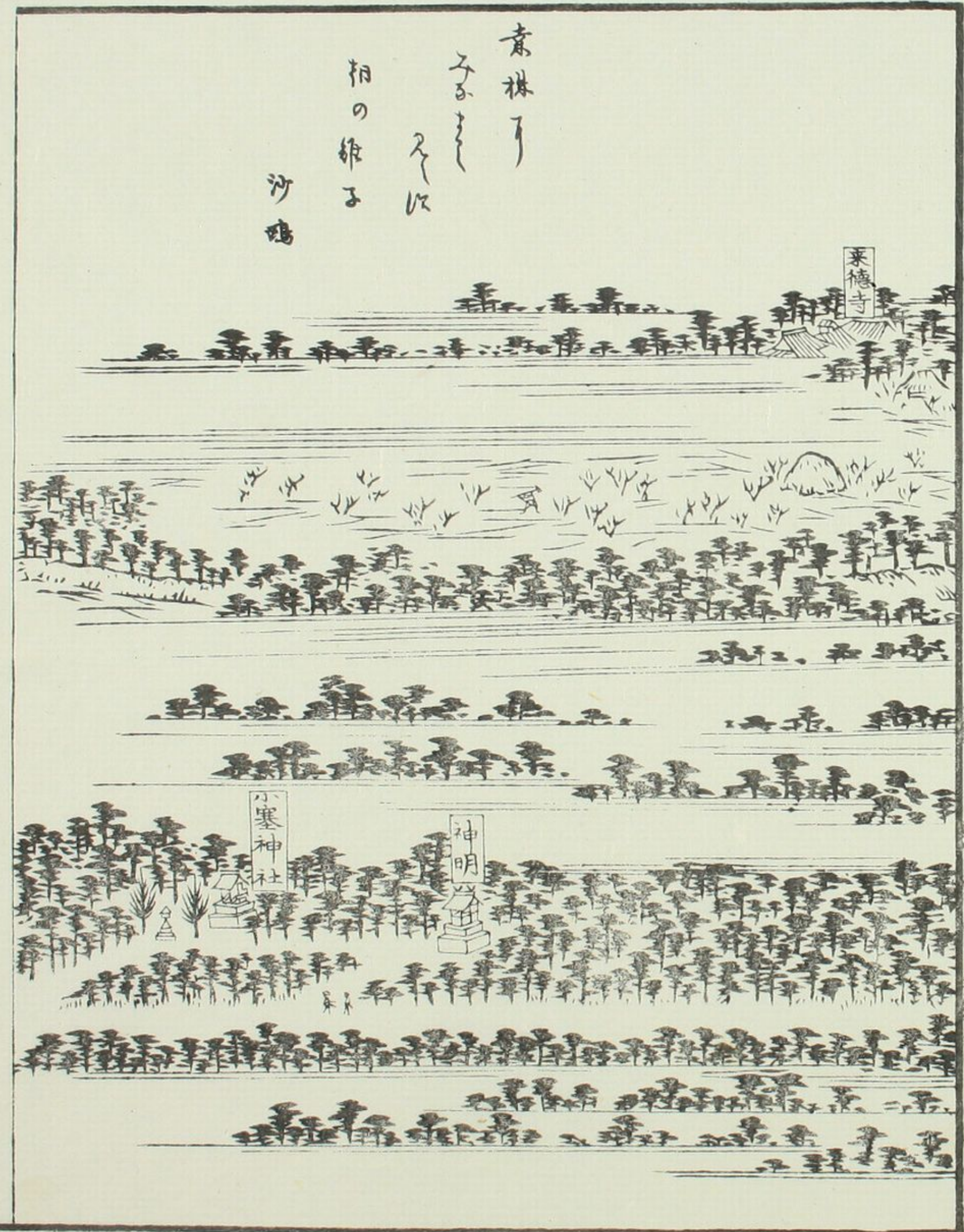
とせいの  
小塞神社  
人磨塚  
壽福寺

石ノ神社

東穂録に下野那須  
國造碑山城高野川  
北小野毛人墓河内  
石川郡春日村石刻  
大和宇知郡大澤村  
揚貴氏墓尾張桑栗  
郡河田村兼衆人磨  
墓ソノ子鹿毛津沖  
石の相足の時々寺の  
ソノ一



素林下  
みま  
又以  
相の娘子  
沙鷗





人麿ハ高木の領人としてこの地を治るを建主候 天武持統文武の序世に折本人麿栗本人  
 唐二人の胡俗有り折本人石見國人栗本ハ尾張國人也 其姓氏の栗栗とあり栗本も  
 高木折本を栗本二人のひびきありて幸ハ古書にも見ゆ 百人一首一話ありて  
 本有川の向ひの栗本村ハ其舊地なり 今ハ此の地ハもと栗本氏の甲人多くこれハ胡俗を  
 考へてありて折本崇敬ハ其天神とありて

小塞郷 尾関村と云和名抄に中島郡小塞村とありて 舊郷なり

小塞神社 同村に 延喜神名式小塞神社本國帳小從二位小塞天神

古社あり式及び國帳にも中島郡とありて此地

彼郡に屬したりとあり尾張本貫小塞氏の祖沖と祀りて

今ハ船着明神として小塞と云ども地内も廣く延々土村 小塞村とありて 其地ハ少く  
 物ありて此ハ細友根田氏の尾関石見古く栗本とありて 後に改姓して今の氏とありて

小塞宿祢 同村の人續日本紀延暦元年十二月庚戌内掃部正外從五位下小塞宿祢弓張言  
 弓張等二世祖遊之野庚午歲以降因居地名從小塞姓望請依庚午年籍改換

小塞蒙賜尾張姓許之とあり

尾関石見守 同村の人尾関大和守吉秀の末葉尾関新を其子とありて 又子とありて  
 福島正則ハ尾関石見守と名あり古く石見守とありて 正則安曇の庶孫候に對して 防父ハ一萬石子ハ二萬五子石とありて石見守 武居

慈雲山壽福寺 同村より黃檗宗山城宇治萬福寺末南寺創建の年月詳くは  
 同山ハ唐僧より傳はりて 釋圓子の布教とありて 此の地ハもと栗本氏の甲人多くこれハ胡俗を  
 考へてありて折本崇敬ハ其天神とありて

今ハ此の地ハもと栗本氏の甲人多くこれハ胡俗を考へてありて折本崇敬ハ其天神とありて

妙光寺

祀る

門やワノ桑ハ

これ柳

武貫

ね色楳ヤ

ちくりに

ちくりに

まは月

素溪









石刀神社



義  
三  
福

其二  
製絲の圖



五  
八  
十





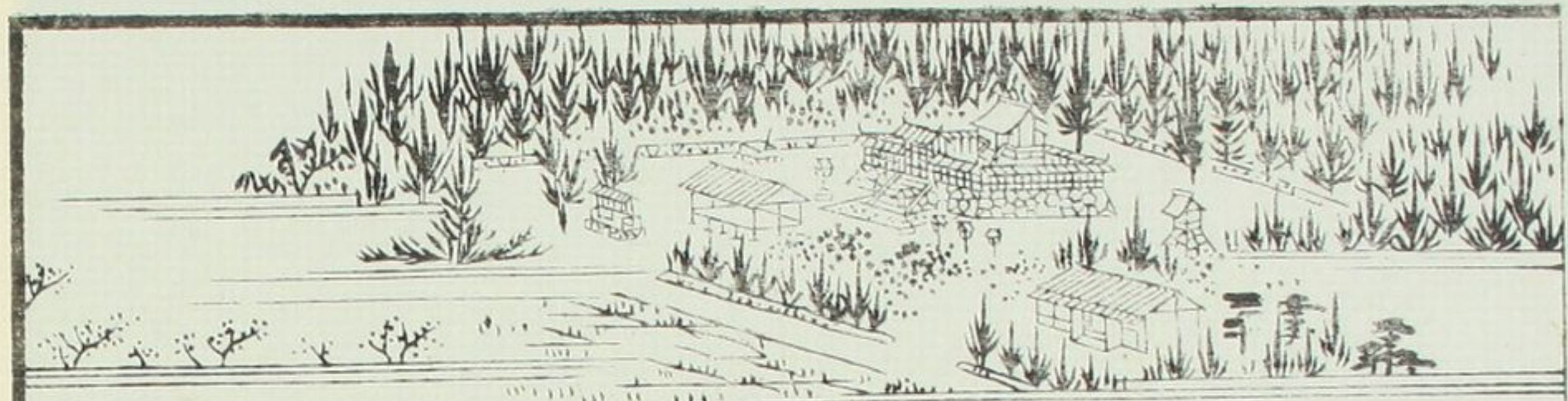


桑上郡  
林郡

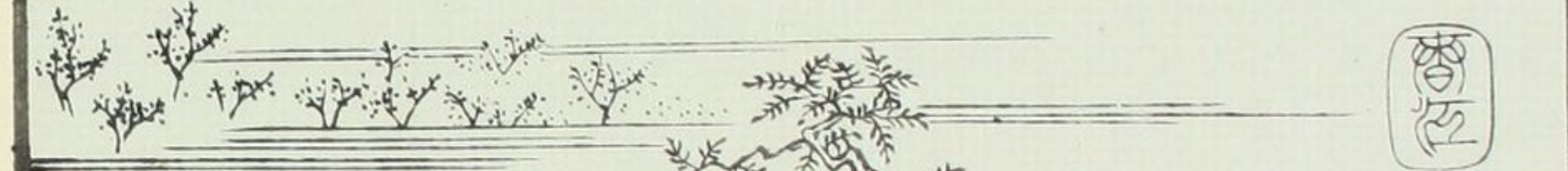
新大船  
此を  
こゝに  
ついで  
てい  
はる  
葉の  
如  
元俊朝臣



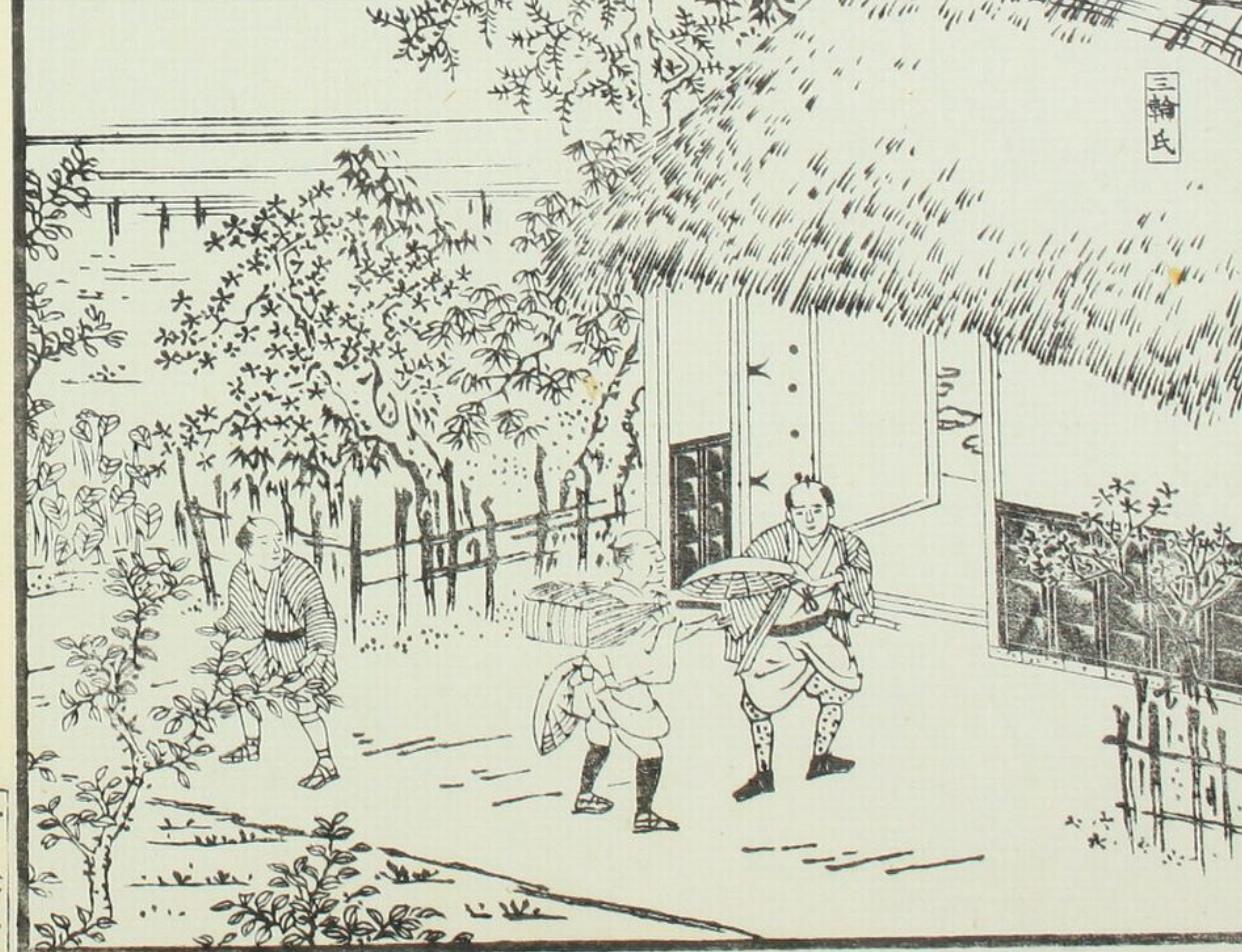
五元集  
桑上郡  
尾傳  
其角



宮田天王社



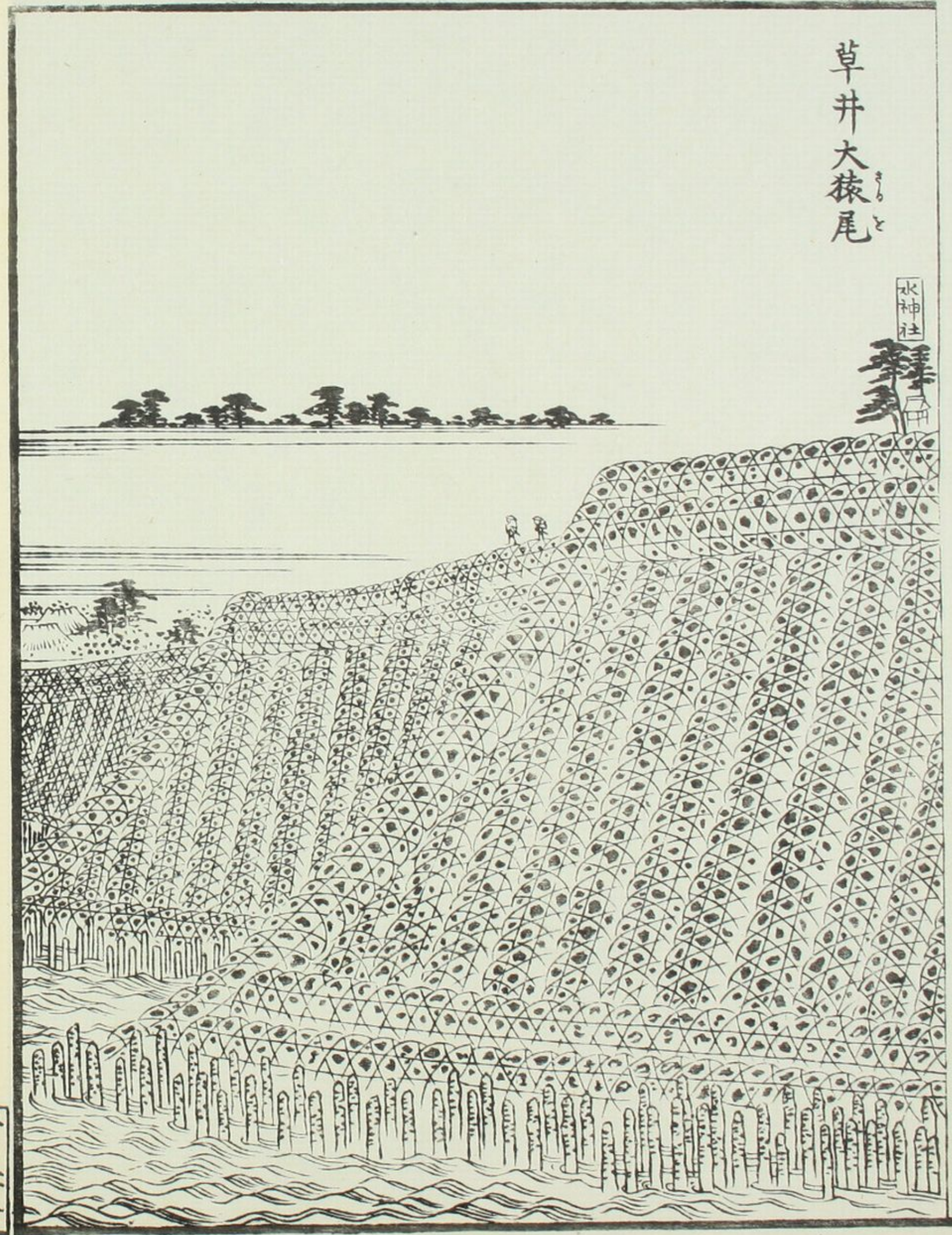
三輪氏





草井大猿尾

水神社



五ノ六

水乃川の水激流して  
 此の地やもすれは  
 決り易きを大造り  
 石を亀に大岩と入て幾まも  
 積上げ其長さ十餘間  
 水下へ斜に流させり  
 其石を亀に水と陸境の  
 平安とせせりむらふ  
 かく石を亀と流出せりと  
 猿尾といふ方云々  
 石を亀ハ諸国に多しト  
 ン(と)もめ(と)も大石を  
 介かある事か一近隣宮田  
 村麻子出村小に日ありて  
 俣小千間猿尾と云へり

香





河沼舊郷

後醍醐村の地なり今河沼と云ひあり度々  
河沼の地なり今其の地なり

仙覚律師が

万葉集抄に尾張風土記と引いていふ葉栗郡河島社在河沼郷  
河島村奈良宮御宇 聖武天皇時凡海部忍人申此神化為白  
鹿時々出現有詔齋為天社云云民部省圖帳小河沼公穀二千  
五百六十七束有餘假粟一千三百九十五丸貢粟綿班系鞍馬  
具木竹之工又以牧馬克國司之奉

眞入天神社

小松村あり今熊野社と稱す小松入りなり眞入の地なり  
帳に從三位眞入天神と記す古社なり境内廣く櫻の大樹あり

法隣山文永寺

同村あり臨濟宗條中村妙光寺末寺也其往昔ありハ禁裏供御料所  
租税のさめ年々友吏奉じに古寺の別殿あり其意匠と云ひて後世ハ

眞名代塚と号くと云今境内あり古塚これあり板倉寺ハ文永元年草創の地なり天台の  
天場山号と法輪山と云と後鄰文字に改めハ則稅銀の因小なり米井邑の字畫より名づく  
と云此よりかくて天文九年同郡條中村の妙光寺ニ松峯和尚を請じて中興と云今の家  
小あり

名産年魚

本河川と云今夏の頃の年魚ハ大山と云今八月より奥に  
川ハ早稲と云早稲村麻子為村也の形毎に  
張切細又と云と云と云其細小なり其形ハ草花の形に似たり  
と云此の漢人農人賣百人と云と云と云細き竹竿をたきして  
通下流と云



文永寺

寺曠

森の影

切

穴も

塔の影

香

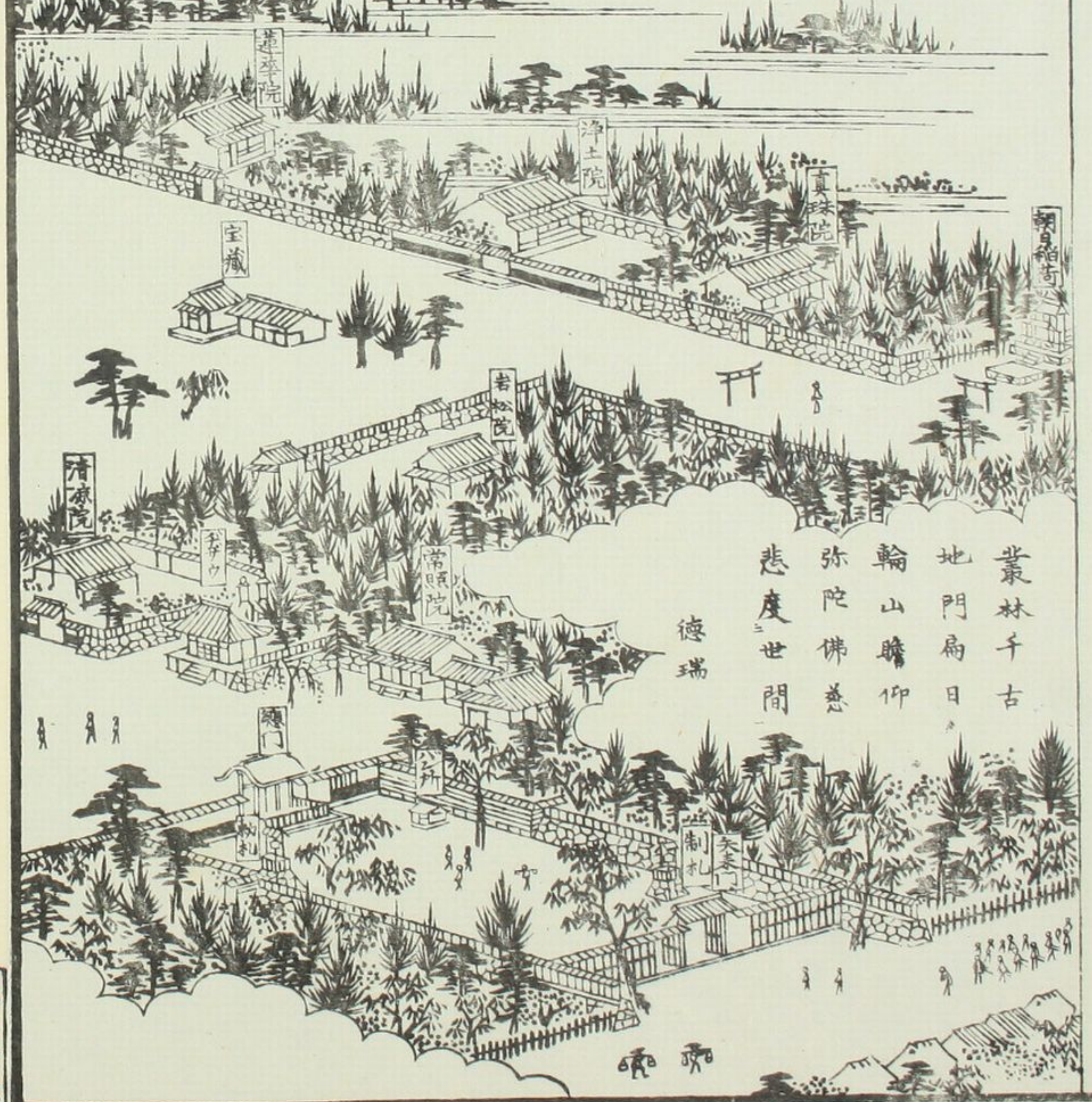






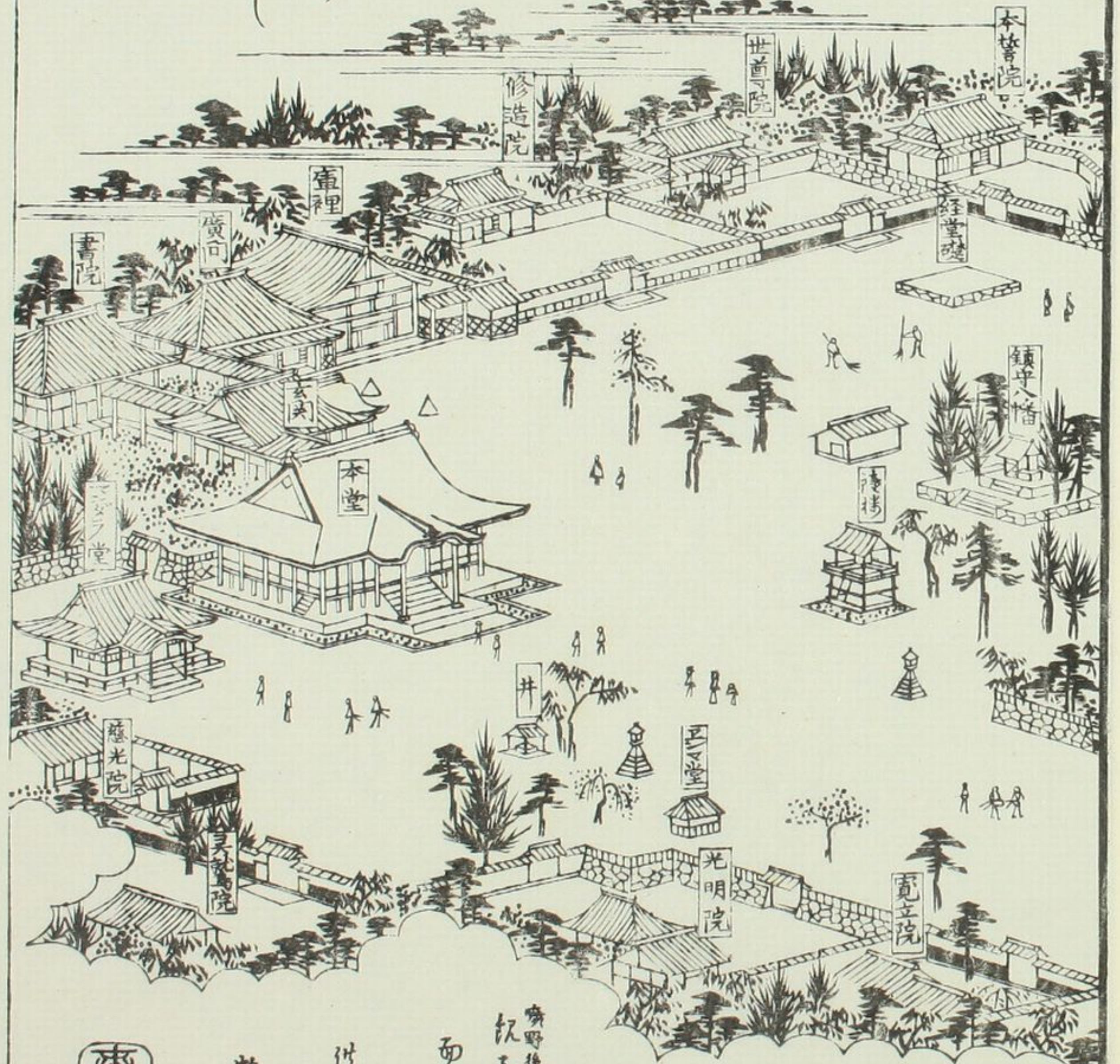
曼陀羅寺

ことし 嘉永八年  
 の去大師六百年の  
 志忌にあんめく  
 りふり云々人々に  
 みるさとおもひつ  
 くとよめる大和分  
 とすめおのれも  
 つくあさこのまを  
 そのかこもはくつて  
 昔親の清本平  
 つしめかこもら  
 からのまうとふけ  
 いさりのまぬに  
 きけ奉るこつ  
 こくまうり  
 ことし  
 神と志を  
 六百年の  
 志をひくと  
 志のふけに  
 炬範



叢林千古  
 地門扇日  
 輪山瞻仰  
 弥陀佛慈  
 悲度世間  
 德瑞

ひらにまう  
 一々新以茶  
 のゆるとん  
 飯白所を  
 尾張正司記  
 去つてはや  
 新以いら  
 虎竹



香徑

廣野後集  
 飯毛此  
 西寺  
 作去  
 鶴声







曼陀羅寺軍議

岐阜攻の時諸將  
先登保の曼陀羅  
寺小笠原軍評議  
ありし池田輝政等  
入廟一行と家老  
某ひそく小笠原  
行やん私請り  
りば輝政とつて  
座もゆきとて  
おとすをわたり  
田の治らとては  
まゝとて曼陀  
羅寺の方丈傳  
若和尙其時  
小僧とて<sup>十二茶</sup>  
の於仕ゆが  
右の極<sup>十二茶</sup>  
見しとて色



けりし人又清  
海川越のい  
滅せしとて  
比附水のほ  
あゆみ一火  
繩<sup>十二茶</sup>  
しとて  
も也被傷  
幸に相語  
せしと陸丸  
かんり





法燈の光を燈す院にて院との致産とぬ海一侍り  
 かろえにいふ結ひ 法の水ふくやせにらりおとん  
 上人のついに

法の水ふくれの本もふくえにむしん  
 かして西東妙が主ゆつていひゆり  
 南にむしゆりも主ゆつていひゆり  
 永く思入執とやうりなんつうま  
 傾けつてを塵のかうり心地をすれ

**名産飛保茶** 前在保後飛保その外を村  
**河俣上天神社** 河俣村あり今ハ創社と称す本國帳ハ中島郡後三位河俣上天  
 神といふ古社あり此地むし中島郡小倉より一尺國帳ハハ

**平泉山勝宝寺** 同村あり一向宗東派系郡本山直末を院敷あり  
 部村の産りて俗姓ハ加茂其より者つうり親雲上人本名川とてま  
 うまひりて七人のうちを聖人の位化かゆつてあちと建立り  
 人より師とてこの聖人真名の十字名号とて宮とり大谷を跡縁に  
 烟勝宝寺ハ郡部七箇寺の其一なり中古浄門徒の子孫起立す所  
**如来堂運善寺** 大日比咩村あり一向宗東派系郡本山直末郡部七門徒の  
 ちりて往昔ハ天台宗あり此地の住持真言坊親雲をく

勝寶寺





河俣上天神社

神杉の

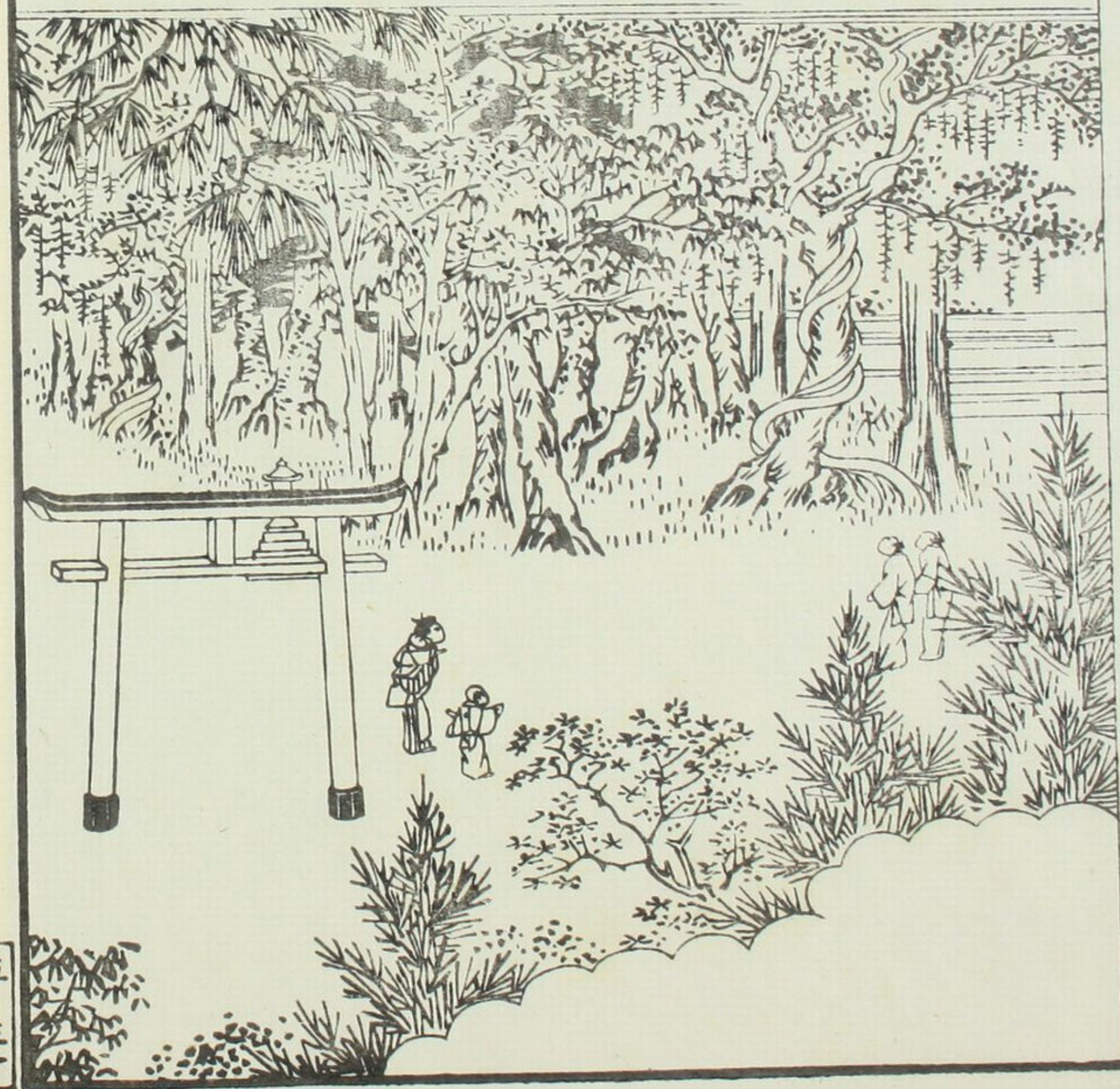
言さむと

ころもて

上もさむ小

友ハ暖ラ奉

夫部典則

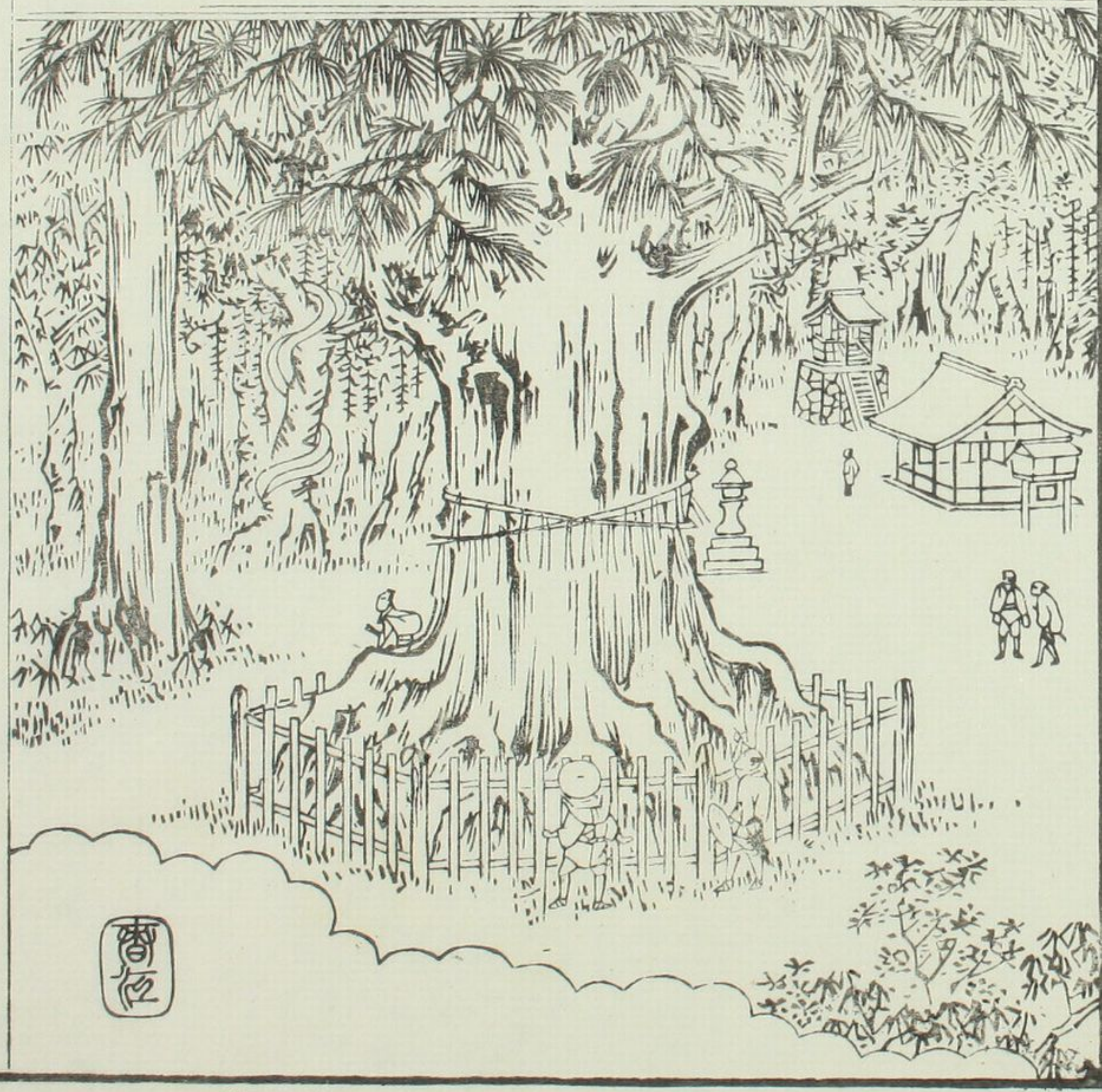


立方道ハ

けり乃あす

茂りうか

言丸





西條一今の京に及む者ちの入信坊の本條ありてこの國より吾人の跡を考へひのふ  
らむにがけあつて病死せり位持ひ傳と訓と抄紙といひ傳入信坊八廿四輩戸十八  
常陸國大曾根常福寺の祀りゆひちの吾人曰語  
の一ありて倭僕三才國會の事ありてなり

**若栗郷** 吾村のより字和栗とゆふ地ありて和名抄及び民部省  
國帳小栗栗郡若栗と見ゆる名抄及び民部省

**若栗橋** 四村のあり若栗の旧郷の  
橋の名にのりたるなり

**若栗神社** 同村のあり今  
ハ通と振次 延喜神名式小若栗神社本國帳小從三位若

栗天神とありてり祭神ハ羽栗臣の祖神 天押帶日子命 民部省  
國帳

若栗明神神田三十有餘東光國司之受祝 社人 松本氏ハ若栗神社の旧地にありて若栗  
和銅二年所祭饒速日命也と云ふなり

西方院のまより ななりて坐曆十三年より名ちの七寺のまよりなる此及び宇夫須  
奈神社の社勢少く久しき梵刹なりと云ふ此の衰廢早と云ふ十年南西に修  
兼和修理真正吉原奥とて舊記に履  
せし明治元年辰八月ありて社人と云ふ

**宇夫須那神社** 同村にあり今  
持現社と振す 延喜神名式小宇夫須那神社と見ゆ

本國帳小從三位宇夫須那天神といふ官社より祭神ハ 景

行天皇の御むすえ五百城入姫皇女より御母八坂入姫ハ尾張大

海媛の御孫むれハ其縁りて皇女け國とて生れたり さりとて二十社  
注式に尾張

五ノ三十一

**若栗神社**  
**若栗橋**



くもつては  
いさ小川の  
橋より  
いさ付らせむ  
名と抄より

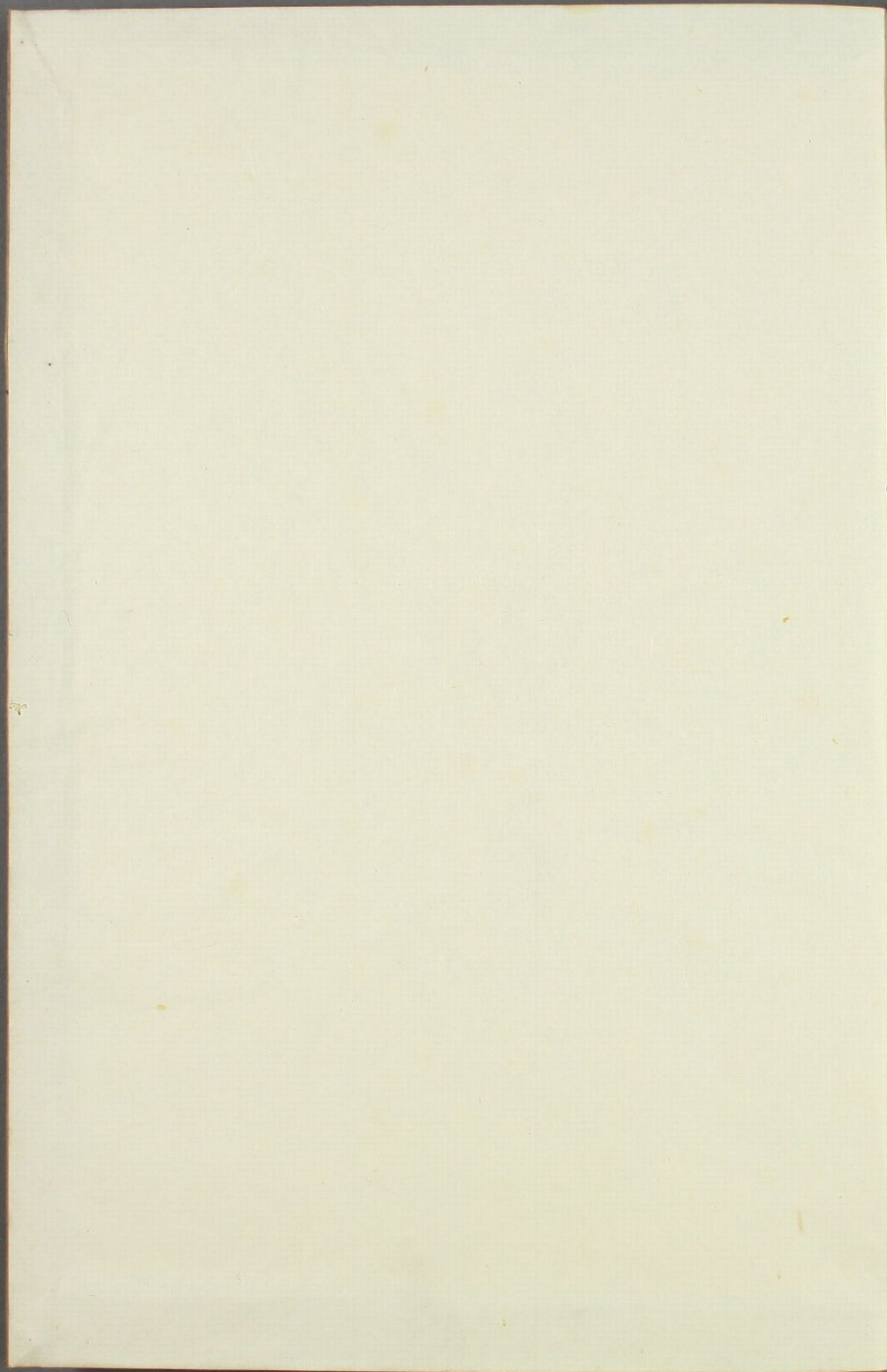
志近











五ノ三十一

